



第27回(最終回) 木村奈保子の 音のまにまに

歌や演奏を聴くと、その人自身の内面が見えると言われます。自分の内面が音に出るのを感じたことはありますか？——誌面での連載を今回で終了し、次回からは舞台をフルートオンライン (<https://www.alsoj.net/flute>) に移してリニューアルします。これまで言葉に込めてきた思いを、もう一度振り返ってみます。

音で語れるものとは何か？

私事ですが今年一月に、母が亡くなりました。亡き父とは、仕事を通じて多くの関わり、会話を共にしてきましたが、母とは、共有感を持つことが少なく、「普通の女の子」から程遠い私が娘であったことを申し訳なく思うばかりです。

「無償の愛」とは、謙虚で奥ゆかしい母のような女性のためにある言葉です。ただ、似ても似つかぬ母との共通点がひとつ。それは、「ダンス好き」ということです。戦後日本の社交ダンスブームで、多くの人が踊った時代、母は踊り上手な父と巡り合い、ダンスを楽しんできたのです。

彼らの好きな映画「グレン・ミラー物語」(1954年・米)を見ると、この映画の曲でジルバを踊る父と母の姿が浮かびます。主演、ジェームス・スチュワートとジューン・アリソンの夫婦関係も、まさに私の両親のイメージそのものでした。

映画の中のヒーローとヒロインのような両親を目の前に育ったわりに、私がひねくれているのは、「女性はかくあるべし」という母親像に反した人格を私が強く持っていたからだといえます。しかし、そのおかげで、アメリカ女性が目指す男女同権の時代の新しいヒロイン像を研究するきっかけになりました。

アメリカ映画では、尽くし型の母性あふれる女性像、ジューン・アリソンから、時を隔てて、ヒロインは社会で男性と対等に、あるいはそれ以上に力を持つ存在に変化しています。

こうした変貌の中、文明国、日本の女性がまだまだ遅れていると言われるのは、「ジェンダー論」が煙たがられ、十分な議論がされないまま、放置されているからでしょう。

現実には、社会的な男性ほどジューン・アリソン型に執着し、女性もまた最終的には自立よりも、格上の男性による経済面での期待を捨てられないからかもしれません。

そうした文化の中で描かれる日本映画の女性像は、海外の映画人からすれば、かなりお子様で、未熟と見られています。

ジューン・アリソン型なら、大人としての女性の落ち着いた魅力を感じさせますが、日本の現代女優に見る、ぶりっこしゃべりや普段使いのしゃべり方、劇画チックなふるまいは、もはや「成長」どころか、「後退」といえるのではないのでしょうか。欧米、アジアと各国で表現は違うもの

の、ヒロイン像は、女性の成長と自立を目指しているのは確かで、日本にはそこだけが大きく欠けている気がします。

わかりやすく言うと、「可愛いファースト」の文化で、世の女性は男性にまだ、媚びているのです。女性の魅力で周囲を動かしても、立場として、本当に強くはなっていないのです。

女性タレントが少しでも若く見せたい、と願う欲望は、芸に対する思いよりも女ごころが強いと感じられます。その点、女性の肉体的弱点とされる部分を武器に活動している「女芸人」は、その腹のくくりっぷりこそ、尊敬に値します。

面白い女性の姿を見て、「女を捨てている」と男性陣からからかわれるときの言葉がありますが、その手に乗ってはいけません。男性は、願わくば女性が、カワイコちゃんていてほしい。芸が秀でているより、仕事が秀でているより、女性らしい恋人、妻がいいと感じているのが現実です。

そんな男性を選び、才能を棒に振った女性を何人も知っています。簡単に両立はできません。そもそも、男性に、「両立」なる言葉がないのに、女性にはなぜあるのでしょうか？

今回は、私の人生観の一部を露呈しましたが、これまで映画の切り口として、音楽、ダンスや心理分析ジャンルと同時に、ジェンダー論に傾倒してきた私の思いを伝えたかったのです。

歌や演奏を聴くと、その人自身の内面が見えると言われます。自分の内面が音に出るのを感じたことはありますか？ 言葉により直球で伝えることとは違い、音で語れるものとは何か？

今後も、ただ映画を紹介するだけでなく、そこから考えを掘り下げていきたいと思います。

さて今年、今号が最後になりました。そして、誌面での連載も最終回となりましたが、今後はWEB版で、この連載コラムを続けていきますので、よろしくお祈りします。

ネットコラムの方では、みなさんからのご意見も頂戴できるかもしれませんので、楽しみです。炎上しないことを祈りつつ……。ありがとうございました。

木村奈保子



NAHOK INFORMATION www.nahok.com

Fabric from
Germany,
Made in Japan

コンビネーションでもっとお洒落に！

冬のお洒落に大活躍のボアを、NAHOKにプラス。いつものフルートバッグが、いつもと違うファッションにも似合うアイテムに変身します。ひと工夫を加えて、あなたのNAHOKをもっと幅広く活用してみてくださいね。



※ボアストラップとサンダルは、NAHOK製品ではありません

そして、彼女は映画を歌った——木村奈保子のベストセレクション映画を、解説と歌で紹介する、初のミニアルバム。東京フィルハーモニー交響楽団フルート奏者で、本誌連載中のさかはし矢波さんもスペシャルゲストとして参加！

CD「木村奈保子のシネマソング」

【価格】¥2,000(税込)
【演奏】木村奈保子(解説・歌)、シネマオールスターズ 佐々木豊(ジャズドラマー)
【スペシャルゲスト】さかはし矢波(東京フィルハーモニー交響楽団フルート奏者)

